

令和6年度 ノースアジア大学・秋田栄養短期大学

入学式 学長告辞

あたたかい日が多くなってきましたが、この春のよき日に、本学に入学した諸君を、心から歓迎したいと思います。

皆さんは、これからは学生として勉強をすることになるわけですが、大学ではどのように勉強したらいいかということ、少しお話ししたいと思います。

高校と大学とはどう違うかということですが、高校では、授業で先生が全部説明してくれます。それを理解する、そういうことに勉強の中心が置かれていた。しかし、大学での学問は、これとは違って、さらに自分で考えてみる、疑問を持つことが非常に大切なんです。

高校の勉強では、正解があった。しかし、大学での学問は、何が正解かということがよく分からない場合がある。私は法律学を学んだんですが、解釈にも、多数説があり、反対説があり、また判例が違った考え方をとっている。あるときには、正解が無い、そんな場合もあるんです。一体何が正しいのか、それも時間とともに実は、変わってくるんです。

皆さんの中に、栄養学科に入学した学生の方がいます。例えば、ニンジンの栄養について考えてみますと、ニンジンの栄養素は、大部分が解明されていないんです。私たちの分からない栄養素がたくさん含まれている。まだ未発見だ。

βカロテン以外に、ファイトケミカルというものがあります。紫外線や、いろいろな外敵から、ニンジン自身が身を守ろうとする、そういう栄養素です。

でも、ニンジン自体は、仮に栄養素がよくわからなくても、私たちの体になくならないような栄養素がたくさん含まれているわけで、スイスのベンナー病院では、患者の治療にニンジンを使っています。いろいろな生活習慣病を治している。完全に解明できないから使わないということではないんです。今あるもので治療をしようとしているんです。

例えば、「答えがない」ということと言えば、風邪だって、症状を抑えるものはあっても、根本的な治療薬はないんですよ。また、がんの発症についても、いろんな学説はありますがけれども、根本的な発症原因についてはよくわからない部分がある。治療法についても、切ったり、放射線で焼いたりする侵襲的な治療はあっても、根本的な治療法はできていません。

こうのように、答えがない、まだ分からない分野がたくさんあります。

科学の分野では、これまで正しいと思っていたことが、間違いだということが後になって分かってきます。

地球が丸いと言い出したのはピタゴラスですけれども、それまでは、地球というのは、どこまでも平らであるというふうに思われていました。

皆さんは、高校の漢文の時間に勉強したと思いますが、孔子が、「之を如何せん、之を如何せんと曰わざる者には、吾之を如何ともすることなきのみ」と言っています。

いったいこれは、どういうことなんだろうか、なぜか、そう考えない人については、私は教えることはできないよ、と言っているんです。考えることの大切さ、疑問を持つことの大切さなんです。フランスの哲学者デカルトが「我思う、ゆえに我あり。」と言っているのも同じことです。考える勉強、疑問を持つことの大切さなんです。この世の中にあるものについて疑って疑えないものは何一つないんだ、とまでいうんです。

だから、先生が授業で説明したことをもう一度反すうし、考えてみてください。教科書に書いていること、先生が説明したことについて、疑問を持ってもらいたいと思います。そういう勉強が大切なんです。

皆さんが、ノースアジア大学、秋田栄養短期大学に入学して良かった、勉強もした、人生をどう生きていくかも考えるようになった。そして仕事も、大学で勉強したおかげだというような、そういうような学生生活を送っていただければと思います。

皆さんは、教員というと、敷居が高いと思うかもしれませんが、皆さんが研究室に訪ねて来て、いろんな質問をぶつけてくれることを望んでいます。

そして、皆さんが、健康で悔いのない学生生活を送られることを念願しております。

ご父母の皆様にもこの場を借りて御礼を申し上げ、告辞といたしたいと思います。入学、大変おめでとうございます。

令和 6 年 4 月 2 日

ノースアジア大学

秋田栄養短期大学

学長 小泉 健